

助産婦雑誌 第14巻 総目次

1960 年 (第1号～第12号)

〔口 絵〕

流行っている開業助産婦さん……………	号 1
日本母性衛生学会発表さる……………	1
ますます気運上る母子衛生大会……………	1
家族計画普及全国大会……………	1
トロントの病院……………勝島 喜美…	1
新しい学院紹介	
新潟大学医学部附属助産婦学校……………村山 郁子…	2
千葉大学医学部附属助産婦学校……………上遠野一子…	3
名古屋大学医学部附属助産婦学校……………福住 信子…	4
大阪赤十字助産婦学校……………末石 和子…	5
未熟児保育器のいろいろ	
……………松沢 千恵・竹谷アサヨ…	2
顔面の破裂……………川島 弥…	3
整形外科における手術とその限度と	
いうもの……………山本 浩…	4
夢の楽園 “ディズニールランド” ……植山 つる…	5
産 褥 体 操……………田中美代子…	6
国立秩父学園を訪れて……………北村 順子…	6
昭和35年度看護協会総会開かる……………	7
産婦人科と真菌, 特にカンジダ……………水野 重光…	7
楽しい雰囲気につつまれて終了した	
日本助産婦学会……………	8
小児麻痺と闘いつつ……………	8
おげんきですか妊婦さん……………	9
立派になった賛育会病院……………	10
赤ちゃんこんにちは……………	10
浴風園の老人たち……………	11
アメリカの保健衛生……………荻野 博…	12

〔今月の言葉〕

将来の助産婦の在り方について想う…小林 隆…	1
富士山に想う……………柏木登美乃…	2
助産婦ということ……………久慈直太郎…	3
助産婦の現在と将来について……………田中 志ん…	4
助産婦の養成問題……………谷口弥三郎…	5
心にゆとりを……………田所八重子…	6
正しい言葉……………足立 春雄…	7
働く婦人と24時間の生活……………谷野 せつ…	8
今月の言葉……………勝木 新次…	9
真実という事……………湯根 ます…	10
近 時 雑 感……………中山 マサ…	11
声ある声をきく……………辻 達彦…	12

〔綜 説〕

母性衛生学会成立にさいして……………森山 豊…	1
統計上よりみた母子衛生の動向	
(1～2)……………山中 和 8,9	
妊産婦死亡に関する諸問題……………鍋倉 正夫…	10
分娩傷害について……………官川 統…	10
新生児死亡	
生前の症状と死後の所見……………馬場 一雄…	11
病理的に……………山田 耕司…	11
死産届にうずもれる生後死亡の赤	
ちやん……………渡辺 清綱…	11

〔研 究〕

横 位 分 娩……………大浦みどり…	1
子宮破裂分娩の1例について……………山崎 きよ…	1
正規産褥看護について……………渡辺イセヨ…	1
家族計画を実施して……………遠藤 米子…	1
正規分娩についての調査……………染谷 あい…	1
未熟児の家庭分娩と家庭哺育……………田中 志ん…	3
妊産婦・褥婦の栄養指導法について…柴田すみ子…	4
栄養方法別による育児成績の差異……………渡辺 清綱…	5
母子健康センターの現状とこれから	
の助産婦活動……………中村 敏江…	5
鎖骨骨折を起した巨大児分娩につい	
て……………神津今朝子…	5
骨盤位に関する統計的観察……………岸 米子…	6
病院におけるタイムスタデーについ	
て……………山内 啓年…	6
病院における婦人科タイムスタデー…山形阿さ子…	6
過期産分娩について最近4カ年間の	
臨床成績から……………福田ふさ子…	7
新生児清拭法と臍脱時間・皮膚疾患	
について……………佐藤 敏子…	8
長野県に於ける母子衛生調査につい	
て……………富田 房…	9
双角子宮の分娩に遭遇して……………畠山 せつ…	9
先天性の魚鱗癬児の分娩を取扱いて…田中 すず…	9
八戸地方の未熟児と私の哺育経験……………太田 賢…	9
産科事例研究……………柳 陽子…	10
産褥中急性肺水腫を合併せる患者の	
看護について……………岩沢 スミ…	10
臍の処置について……………佐々木コキク・金子 リエ…	11
産科における分娩の実態から……………飯塚八重子…	11

未熟児保育のたのしさ	古川 とも	12
------------	-------	----

〔講 座〕

小児麻痺について	松見富士夫	1
新しい小児外科	若林 修	1
母児間血液型不適合による		
新生児溶血性疾患と交換輸血療法	白川 光一	2
最近の新薬展望	久保 文苗	2
造形美術に表現された乳房の		
美術解剖学的観察(上・下)	中尾 喜保	2・3
妊婦と冬の病気	吉利 和	3
注意すべき妊婦の既往病歴		
御園生雄三・古川金次郎		3
新生児の眼底出血	蒲山 久夫・本橋 昭男	3
家畜の人工授精(Ⅱ)	岡部 利雄	3
晩期産について	安井 修平	4
過熟児	藤井 とし	4
前置胎盤	貴家 寛而	4
脳波の話	平井 富雄・馬淵 正子	4
妊婦の皮膚疾患	川村 太郎	4
中絶希望者のうちから	鎌田 英夫	4
妊娠中毒症についての最近の動向	真柄 正直	5
原爆症と産科のこの頃	田淵 昭	5
妊娠悪阻	久保 博	5
妊娠中の虫垂炎	清水直太郎	5
事例分析のすすめかた	田中 恒男	6
労働の生理と栄養のとり方	高木 和男	6
妊婦の献立について	寿円 梅子	6
妊娠時の食事	西村 薫	6
家族計画随想(1～3)	大島正雄	6,8,9
妊娠中毒性肺水腫	関 蘭	7
産婦人科と関係の深い耳鼻咽喉科の		
疾患	白岩 俊雄	7
軟産道の伸展性について	和田 豊	7
足の裏をはかつて	後藤 伸	8
卵管不妊に関する研究	貴家 寛而	8
不妊症の臨床的考察	西島 義一・長田 昭夫	8
妊婦のための保健指導	勝島 喜美	9
妊娠とホルモン	落合京一郎	9
抗精子抗体による実験的不妊症の研		
究	足高 善雄・磯島 晋三	9
男性不妊症の要因に関する研究	吉田 俊彦	12
基礎体温曲線の2,3の問題	尾辻 慶彦	12

〔座 談 会〕

母性保護の理想について		1
赤木 とな・沢崎 千秋・竹内 繁喜		
竹沢ソノ子・俵 アイ・長橋 千代		
木下 正一		

学窓を巣立つに当って		2
岡部美和子・杉谷フミ子・中村 敏枝		
堀川 正子・所沢 綾子		

女教師と母性		4
朝田 秋子・尾田 文代・加藤 総枝		
田中シズエ・田中テルヲ・多和 はつ		
大島 正雄		

施設における保健指導		7
竹内 繁喜・瀬木 三雄・小竹 英子		
村岡八千代・大渡マツエ・佐藤まさ子		
木下 正一・長谷川 泉		

こうなれば私たちは満足です		12
鈴木 ミツ・山路 早苗・上田ヒデ子		
関 よね・伊藤 輝子・今原しゅん		
川上ふく子・山田 里津・岩田久美子		
林 きくを・長谷川 泉		

〔アンケート〕

新生児は小児科に移さるべきか		6
陣痛発来時の所見によつていかに分		
娩時を予測するか(1～2)		10,11

〔母子健康センターだより〕

高知県土佐村母子健康センター	和田 千代	7
入善町母子健康センターについて	上田キクエ	8
吉舎町母子健康センター	川井 淑子	8
滋賀県中主町より	川尻 志げ	9
岐阜県古川町	蒲 幾美	10
鳥取県若桜町	伊藤 幸枝	11
岐阜県郡上郡白鳥町	坪井たまよ	12

〔解 説〕

石川県受胎調節実施指導員講習会に		
よせて	杉本外喜子	3
養護施設のはなし	木田 市治	9
保健所における助産婦業務	安斎 静子	11
産科病棟改善のヒントに	勝島 喜美	12

〔紀行文・随筆〕

のばすのが安全か	小林 敏政	2
日本の家族計画運動における		
今日の問題と明日の課題(1・2)	奈良林 祥	2,3
お茶一杯	春 三	2
女性はどうな特質を持っているか(3)	大島 正雄	3
御前会議	春 三	3
助産婦についていろいろ思いめぐら		
すこと	竹内 繁喜	4
助産婦業務12年を顧みて	田所八重子	5
弄 葉	春 三	6

助産婦の自覚	内田 芳子	7
育児指導について	鈴木 豊子	7
最近の所感から	三宅 秀郎	7
足摺紀行	竹内 繁喜	8
なきごえ	春 三	8
ヴェトナムの旅	竹谷アサヨ	9
スウェーデンの旅から	浅野 一雄	10
御 誠 実	春 三	11
恨みは深しサルバルサン	斉藤 正実	12
アメリカの助産婦	荻野 博	12

〔社会の動向〕

責任回避の世相	長谷川 泉	2
18,000円の本の物語		4
「近代の超克」と「旅愁」		8

〔一般記事〕

助産婦に何を期待するか		1
渡辺 清綱・山中 和・奈良林 祥		
俵アイ助産院をたずねて	北村 順子	1
黄綬褒章受賞に輝く人々		1
母性保健の問題点		
働く婦人の母性保護	藤井 敏子	2
母性保健の問題点	森山 豊	2
母子衛生の問題点	菅原 恒有	2
保健所から見た母性保健の問題点	浜口 剛一	2
パネルディスカッションに参加して	小柳 琴	2
母性保健の問題点	富田テル子	2
医師と助産婦共同経営お三の宮産院	中山 ロク	3
私の郷里の実体と助産婦活動の一部	志和 禎子	3
母親学級10年を回顧して	稲富 辰子	3
助産婦学校の新入生のために	小柳 琴	4

年金のはなし	山崎 圭	5
日本における養老院の趨勢について	瀬戸新太郎	5
月賦分娩制について	松沢 千恵	5
精神薄弱児について	北村 順子	6
未熟児あれこれ	青柳かくい	6
石垣先生の質問状と谷口先生の回答		

石垣 純二・谷口弥三郎 6

昭和35年度日本看護協会通常総会に

出席して	山本 笑子	7
何故助産婦になつたか		7

沢橋美智恵・下堀 ヤシ・山本 益美

廃れゆく助産婦事業	一色ヤエ子	7
賛育会病院長に就任された木下正一先生		7
35年度助産婦会通常総会にのぞんで	能渡 格子	7
「性と人間」の感想	大島 正雄	7
武蔵野赤十字病院附属整肢愛護棟の		

一日 大西 恵子 8

第16回日本助産婦学会に出席して	田中美代子	8
何故助産婦になつたか		8

千葉 養子・植木トシコ・古川五十恵

森下 信子

初登庁の中山マサ新大臣にきく		9
東京医大病院の新産科病棟の構想に		

ついて 秦 清三郎 9

賛育会あれこれ	木下 正一	10
テレビをたのしむ赤ちゃんたち		10
協力してつくつた助産婦共同産院	森崎 孝子	10
発足した妊婦ドックをめぐる		10
自宅分娩第一号の記	村岡八千代	11
赤ちゃんたちを訪ねられた美智子妃殿下		11
映画への招待 女はそれを待っている		11
助産婦と母と子と		11
映画への招待「誰も教えてくれない」はおしえる		12

国立栄養研究所・国民栄養振興会編

問 答 栄 養 宝 典

桑原丙午生著

栄 養 教 育 50 講

正木富貴子著

離 乳 食 と 与 え 方

斉藤文雄・小林彰共著

最 新 育 児 実 習 書

健康にはどんな食事がよいか。乳幼児・学童・妊産婦の食事は？ 献立はこうして、調理はこうして！……この1冊で栄養と食糧の新知識が得られる。

(B6判 284頁 ¥300 千30)

栄養の話も難しく話したところで意義がない。極く身近な話から栄養の理屈をよく納得するよう話す事が必要であるという立場から話が進められている。

(B6判 210頁 ¥240 千30)

理論に偏して非常に手数がかかり経済的にも無理なことでは一般家庭の実用にならない。確実な理論の基礎の上に立ち、何時でも、何処でも誰れでも出来る実用書である。

(B6判 217頁 ¥260 千30)

「新版育児実習書」として絶大な好評を得ておりました同書を今般は全面的に改訂をし再び世に贈る。

(A5判 260頁 ¥350 千40)

東京都千代田区
神田神保町1

第一出版株式会社

振替東京 23838
電話 (291) 4576~7